

**平成31年度 研究構想図**

〈児童の実態〉

- ・目的があると、自己を主張しようとする意欲がもてるようになってきた。
- ・友達の考えを聞き、受け入れる姿勢はある。
- ・語彙が少ない。
- ・単語での会話が日常的になっている児童が増え、詳しく表現しようとする意識が低い。

〈学校教育目標〉

- かしこい子
- やさしい子
- げんきな子

〈教師の願い〉

- ・「はい。」立つ「です。」を徹底させたい。
- ・自分の考えと比べながら話を聞き、質問、感想、自分の考えを明確に表現できるようになってほしい。
- ・単語で会話を成立させるのではなく、5W1Hを意識してその場に合った言葉遣いで話せるようになってほしい。
- ・国語科領域に限らず、日常生活面からも「話すこと・聞くこと」を意識した取組を考え、目指す児童像に近づけていきたい。

**研究主題 「自分で考え、仲間と学びあい、表現しあう児童の育成」  
～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して～**

国語科における目指す児童像

**すすんで学び、他者との対話を通して自分の考えを広げ、  
習得した知識や考え方を活用して表現できる児童**

〈低学年〉	話す事柄を順序立てて、声量や速さに気を付けて話すことができる児童 大事はことを落とさないように聞くことができる児童
〈中学年〉	相手に伝わるように理由を挙げながら話の中心を明確にして話すことができる児童 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる児童
〈高学年〉	話の内容を捉え、自分の考えと比べながら聞くことができる児童 目的や意図に応じて明確に話すことができる児童
〈神明学級〉	自分の思いや気持ちを表し、相手に伝えようとする児童 先生や友達の話最後まで聞くことができる児童
〈専科〉	理由を挙げながら、筋道を立てて話すことができる児童 話の中心に気を付けて聞くことができる児童

〈研究仮説〉

国語科「話すこと・聞くこと」の領域において、学習課題と言語活動を工夫すれば、主体的・対話的に自分の考えを広げることができ、習得した知識や考え方を活用して、言語による表現力が身に付くであろう。

〈研究の視点〉

自分なりの考えをもつ

学習課題を正しく理解し、自分なりの考えをもつことができたか。

主体的・対話的な学習活動

児童が自ら学びたいような学習課題を設定し、その解決に向け児童同士が各々の考えを交流し、共有できる学習活動を計画・指導ができたか。

〈指導方法の工夫〉

学習課題と言語活動の設定 → 単元構成の設定 → 指導の手立て → 毎時間の言語活動の計画 → 授業実践

- ①児童の実態
- ②教材の特徴
- ③付けたい力

第一次・・・見通し  
第二次・・・知識・技能の習得 ↔ 対話  
第三次・・・学びを活用した表現活動

ノート・ワークシート・板書・掲示物  
交流の方法や内容  
日々の取り組み・他教科との関連

- 自分の考えをもつ
- 考えを言語で表現する
- 考えを進んで伝え合う

豊かな人間関係、学習規律、学習習慣、学習に対する関心・意欲

地域社会と連携・協働した  
他者との対話

実生活

学校生活全般における言語活動の充実  
・学級でのスピーチ ・読書活動  
・特別活動 ・東京ベーシックドリルの活用